

Mercurial を設定して SimDiff を使用するには

目次

Mercurial の操作手順	2
SimDiff を外部差分ツールとして使用する.....	2
SimDiff を Simulink モデルファイルのマージツールとして使用する	2
参照サイト	3
TortoiseHg の追加手順.....	3

Mercurial の操作手順

Mercurial で SimDiff を使用するには、Mercurial の設定ファイルを変更する必要があります。設定ファイルの保存先は、オペレーションシステムによって異なりますのでご注意ください。Windows は「%USERPROFILE%/Mercurial.ini」、Linux の場合には「\$HOME/.hgrc」を参照してください。

SimDiff を外部差分ツールとして使用する

Mercurial で外部差分ツールを使用する最も効果的な方法は、製品と共に配布されている `extdiff` 拡張子を使用することです。

SimDiff では、指定された左右のモデルパス入力引数に、それぞれ `-leftModel` (または `-l`) と `-rightModel` (または `-r`) 引数を、プレフィックスとして付ける必要があります。

Mercurial `extdiff` 拡張機能では、2つのオプションを指定できます:

- `cmd.xxx`: 実行される実行可能プログラムの名前を定義します
- `opts.xxx`: プログラム名と比較するファイルの間のコマンドに挿入されるコマンドラインオプションのセットを定義します

SimDiff を、外部差分ツールとして設定する手順は、次のとおりです。

1. 書き込み権限がある場所に、新しいバッチスクリプトファイルを作成します。例：
`"C:\Users\\hg-simdiff.bat"`
2. バッチファイルに次の 1 行を追加します (SimDiff がデフォルトの場所にインストールされている場合を前提としています):
`"C:\Program Files\EnSoft\SimDiff\simdiff4.exe" -l "%1" -r "%2"`
3. 次に、`mercurial.ini` 構成ファイルを修正して、SimDiff コマンドがバッチファイルを指すようにします:
`[extdiff]`
`cmd.simdiff = C:\Users\\hg-simdiff.bat`
`opts.simdiff =`

なお、使用するコマンドは「`hg diff`」コマンドに類似しています。

```
> hg simdiff model.mdl
```

カスタムコマンドは、単一モデルファイルの更新内容の比較にのみ機能し、ディレクトリが指定されている場合にはエラーが発生しますので、ご注意ください。

SimDiff を Simulink モデルファイルのマージツールとして使用する

以下の例に従って、`[merge-patterns]` と `[merge-tools]`、2つのセクションを変更してください。

```
[merge-patterns]  
**.mdl = simdiff
```

```
[merge-tools]
simdiff.executable = C:\Program Files\EnSoft\SimDiff\simdiff4.exe
simdiff.args = -b $base -l $local -r $other -o $output
simdiff.binary = true
simdiff.gui = true
```

上記の処理によって SimDiff が起動され、ファイル拡張子が「.mdl」として設定されたファイルのマージが可能になりますが、ファイルレベルでの競合がある場合のみ SimDiff が起動しますのでご注意ください。例えば、任意のモデルファイルが単一のブランチ内でのみ変更された場合、SimDiff は起動されません。

参照サイト

<https://www.selenic.com/mercurial/hgrc.5.html#merge-patterns>

<https://wiki.mercurial-scm.org/ExtdiffExtension>

TortoiseHg の追加手順

TortoiseHg 上で SimDiff をマージツールとして正確に認識するには、設定ファイルで指定する必要があります。なお、「Visual Diff」で外部差分ツールが正しく作動しない場合があります。この状態は、マージツールと違って、外部差分ツールが拡張子で管理されていないことに起因します。

デフォルトでは、TortoiseHg は設定ファイル内で、一番最初に指定されている外部差分ツールを、「Visual Diff」に適用します。さらに、優先順位を指定することも可能です。SimDiff は Simulink モデルファイルの差分処理にのみ対応しており、一般のテキストファイルではエラーの発生が確認されているため、SimDiff を「Visual Diff」の差分ツールとして使用することは推奨しておりません。SimDiff の作動を防止するには、設定ファイル内で SimDiff の上の行に別の外部差分ツールを挿入するか、あるいは以下の手順に従って、TortoiseHg のグローバル設定から別のツールを指定してください。

1. エクスプローラ内の空白の部分で右クリックし、[TortoiseHg] > [Global Settings] を選択します。
2. 左の欄から [TortoiseHg] を優先グループとして選択します。
3. 次に、[Visual Diff Tool] ドロップダウンメニューから、例えば [kdiff3] などの SimDiff 以外のツールを選択します